

平成21年度

# 病害虫発生予察特殊報(第2号)

平成21年8月28日  
神奈川県農業技術センター所長

病害虫名：ミドリサルゾウムシ  
*Ceutorhynchus filiae* Dalla Torre

作物名：ルッコラ

## 1 発生経過

- 平成21年5月に農業技術センター北相地区事務所より、相模原市で栽培されているルッコラに、葉を加害しているゾウムシが寄生しているとの情報を受けた。
- 6月1日に現地を調査したところ、中位から下位の葉に小さい穴が多数あいている被害がほ場全面に見られた。叩き出し調査を行ったところ、小型のサルゾウムシの仲間が多数とノミハムシの仲間等が採集された。
- 採集したサルゾウムシとノミハムシの仲間をそれぞれ無被害のルッコラ葉を餌とし、摂食試験を行ったところ、サルゾウムシの仲間の食害痕が、現地での被害痕に非常に似ていることが確認された。
- 日本鞘翅学会の平野幸彦氏に同定依頼したところ、摂食試験を行ったゾウムシは、ミドリサルゾウムシと同定された。その他、本種よりやや大型のアオバネサルゾウムシも確認されたが、個体数は少なかった。
- 両種ともアブラナ科の野草に寄生するといわれており、アオバネサルゾウムシは比較的普通種であるのに対して、ミドリサルゾウムシは県内では発生の記録が少なく、ルッコラでの被害を確認したのは初めてである。

## 2 形態および生態

成虫は体長2.0~2.2mmで青緑色。年1回の発生で、成虫で越冬する。岩手県では、成虫は4月中旬頃から活動を始め、産卵最盛期は5月上旬から中旬頃である。幼虫は5月中旬頃から出現し、3齢を経過して生長し、6月以降に老熟すると土中に潜って蛹化し、羽化する。

## 3 被害及び寄主植物

### (1) 被害

成虫は、葉身の表皮1枚を残して葉肉部を斑点状に食害し、葉の生育とともに食害部が丸い小穴となる。幼虫の被害は今回確認していないが、畑ワサビでの被害によると、孵化した幼虫は葉柄や花茎内部の組織を食害するため、葉柄の伸長が阻害され生育不良となるほか、食害部が黒変して品質が低下するとされている。

## (2) 寄主植物

アブラナ科植物に寄生するといわれている。ルッコラ、水菜、ハツカダイコン、キャベツ、ナバナの実生苗を用い、放飼試験を行ったところ、ルッコラ、水菜、ハツカダイコンで寄生及び食害が認められたが、キャベツ、ナバナでは認められなかった。

## 4 防除対策

- (1) ほ場周辺のアブラナ科雑草を除去する、発生ほ場では連作を避ける、収穫残渣の処分を徹底する等本種の発生密度を高めない耕種的防除を心がける。
- (2) 防虫ネット等で被覆し、成虫の飛来を防ぐ。
- (3) ルッコラでの登録薬剤はない。



<成虫と食害痕>



<食害痕>



<成虫（上から）>



<成虫（横から）>

神奈川県農業技術センター  
病虫害防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレホンサービス0463-58-6612

<http://www.agri-kanagawa.jp/nosoken/boujo.asp>